

第25回テーマ:六甲山地に  
埋められた宝物



灘区桜ヶ丘出土銅鐸・銅戈  
神戸市立博物館 所蔵

講演内容

- ①六甲山に埋められた  
謎の宝物(銅鐸)
- ②山の上に弥生時代の  
ムラを発見!
- ③海人たちも山を活用した

実施日:平成17年4月16日(土)  
午後1時~4時  
場所:六甲山自然保護センター内  
レクチャールーム



講師:谷 正俊さん

プロフィール

1960年生まれ。立命館大学文学部卒業後、1984年に神戸市教育委員会文化財課に所属。以来、神戸市内の埋蔵文化財発掘調査に従事し、市内各地の遺跡調査を行う。

小春日和の六甲山、ストーブに集結

六甲山に春がやってきました。ドライブウェイに咲く山桜、自然歩道で満開のアセビやクロモジなど、山は美しい装いでした。

11月末から冬期休館していた自然保護センターが開館し、4ヶ月ぶりにレクチャールームへ集合しました。外に比べて部屋の中は冷んやりしており、1台のストーブを囲んで暖を取りました。



ストーブを囲みながら談話

「僕は考古学ボーイ」と語る谷さん

谷さんは、神戸市西区の「神戸市埋蔵文化財センター」に勤務され、20年間埋蔵文化財の発掘調査や遺跡調査に従事されています。

講演の冒頭は、あまり紹介されていない発掘作業や文化財になるまでの一連作業の様子をご紹介いただきました。想像以上に細かく根気のいる作業内容を知って、大変驚きました。

古代人にとってかけがえのない六甲山地

灘区の桜ヶ丘や東灘区の渦が森などから発見されている銅鐸や遺跡を紹介していただきました。

弥生時代、人々は六甲山地の小高い丘に集落をつくり、外敵から身を守る一時避難場所として生

活していました。古墳時代では、瀬戸内海沿いに古墳が並び、高取山や甲山などが信仰の対象とされていたことを学びました。現在私たちが六甲山を活用するように、遙か古代の先祖も六甲山地と関わる生活をしていたことを身近に感じました。六甲山のグリーンベルト地帯と山麓の遺跡が符合しているのに、奇縁を感じます。

足下にあった遺跡に感動

今回、自分達の足下にある遺物や遺跡に触れることができました。六甲山麓の古代史を知り、地元神戸に愛着が深まりました。

平成17年度第一弾の市民セミナーが快調に発信できました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 澤田 俊哉さん

神戸は、源平の頃と維新の開港以来の町、というイメージが強かったので、弥生時代の銅鐸などが出土しているというのは意外でした。また出土した場所が市街地ではなく山の中と聞き、古代人達がそこで何をし、何のために使ったのか、謎めいて面白いと思いました。

私の住まい神戸市西区の近くでも、たこ壺が見つかった遺跡があり、当時の生活ぶりが窺えるとともに案外現代にも通じるものがある気がしました。



主催:六甲山自然保護センターを活用する会  
協力:兵庫県立人と自然の博物館  
後援:兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】  
(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)



# テーマ：六甲山地に埋められた宝物



## 第25回市民セミナーの流れ

### 市民セミナー

1. あいさつ：13：00～13：10
2. 講演：13：10～15：05
3. 休憩：15：05～15：20
4. 交流会：15：20～15：50

### 講演

- ①六甲山に埋められた謎の宝物（銅鐸）
- ②山の上に弥生時代のムラを発見！
- ③<sup>あま</sup>海人たちも山を活用した



桜ヶ丘出土遺跡  
「神戸市桜ヶ丘銅鐸銅戈調査報告書」  
／兵庫県教育委員会編より引用

## 講演のあいさつ(谷 正俊さん)

神戸市内の埋蔵文化の調査を仕事としています。大規模な工事や公共工事によって、埋蔵物などが破壊される前に調査をしています。



谷 正俊さん

## 講演内容

神戸市埋蔵文化財センターのご紹介後、スライドを用いて、発掘作業の風景や文化財になるまでの一連の作業様子をご紹介いただきました。そして、神戸市内の遺物や遺跡、弥生時代の人々の生活、古墳時代の人々と六甲山地の関係をお話いただきました。

### 発掘から文化財になるまで

#### ■根気のいる地道な作業

神戸市内は、震災による復興・区画整理などで発掘調査が増加した。他の自治体からの応援協力を受けて行っている。

#### ＜現場作業＞

遺跡の表面まで土を、ショベルカー等で取り除く。  
→遺跡の表面が近づいてきたら手作業で削り出す。  
→溝や柱を削り出すと、黄色の土と黒の土の境界があらわれ、溝の底から土器などが出てくる。  
→状況を記録にとり図面に起こす。→製図・記録。

#### ＜遺物の整理＞

出土した遺物などは、埋蔵文化財センターへ運ぶ。  
→出土品は土や泥だらけなので、水で手洗いする。  
→土器の破片に1枚ずつ出土場所とその状況を墨で書く。→同じような部分で土器を分類。→破片の不足部分は石膏で埋めて、同系の色を塗る。→展示・報告書の作成後、展示などをする。

金属・木製品などの場合は、別の特殊な保存方法を使う。

**金属の場合：**錆具合をチェックし、ある程度錆をグラインダーで取り除く。手先の作業で慎重を要する。

**木製品の場合：**木の中に樹脂を入れる。日本では地下水に漬かった状態で見つかる。木の細胞膜に樹脂を注入して保存。水と樹脂をゆっくりと入れ替える。



作業の様子  
神戸市埋蔵文化財センター  
所蔵

## 1. 六甲山地に埋められた謎の宝物（銅鐸）

### ■銅鐸について

銅鐸は、コメづくりの始まった弥生時代（2300～1800年前）頃（中国でいうと、漢～三国時代）につくられた。外国にまったく同じものではなく、日本のオリジナルに近い。出土するのは山の斜面や頂上、谷の奥など変わったところで、ムラの中で出土することはほとんどない。何に使われたかは諸説があるが、確定していない。

### ■桜ヶ丘銅鐸（14本の銅鐸と7本の銅戈）

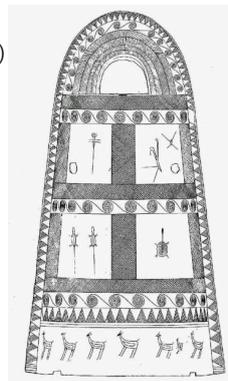
約50年前、現在の親和女子大学付近で花崗岩の崩壊した土を採取中に発掘された。終戦直後の時期で作業中に「カチン」とした音がしたため、最初は不発弾かと思われたが、周りを掘ると、いくつも出土。14個も出土するのは稀である。

銅戈は、もとは中国の武器で、馬の脚を引っ掛けて倒す武器である。日本には馬が少ないので、祭りの道具として使われた。

### ■表面に美しい模様

表面に細かい模様（流水紋）がある。四角の区画の中にシカや亀の模様などをレリーフのように施している。絵画をレリーフにしたものは少ない。絵画の意味は神話とも物語とも思われるが不明。

※「神戸市桜ヶ丘出土銅鐸銅戈調査報告書」（昭和47年兵庫県教育委員会刊）の桜ヶ丘4号銅鐸実測図よりB面を引用した。



銅鐸に描かれたレリーフ

### ■見る銅鐸へ変化

青銅の出土品は青色だが、当時は光り輝いていた。銅鐸は実際に鐘として使われていた跡がある。4～500年間使われた。

時代によって装飾が豊かになり、巨大化するなど形や大きさが変化した。聞く銅鐸から見る銅鐸＜御神体＞へと変化した。



最も大型の6号銅鐸A面  
神戸市立博物館所蔵

## 2. 山の上に弥生時代のムラを発見！

### ■小高い丘にムラの跡

狩猟採集の縄文時代は、争いは少なかったが、弥生時代には、田をつくるための土地や水の争いが起こり、人間同士の殺し合いも増えた。

平地や小高いところにムラがつくられた。ムラには溝がめぐらされた。(環濠集落)見晴らしがよく、外敵がよく見えることから、山の上に集落(=高地性集落)をつくったが、常時人が住んでいたわけではない。敵から身を守る一時的な避難場所とした。

## 3. 海人たちも山を活用した

### ■海に面して並ぶ古墳

古墳時代は、1800年前～7世紀頃まで、各地に古墳がつくられた。神戸や瀬戸内海では海に面したところに古墳が多い。海に近い古墳は海人たちの有力者の墓ではないかと考えられる。

五色塚古墳(長さ194m、兵庫県下最大)、東求女塚古墳(東灘区)、処女塚古墳、西求女塚(400年前前の地震で崩壊。三角縁神獣鏡が出土)

蝸壺や製塩土器など海との関わりの深いものも出土されている。

(製塩土器は、土器の中に海水を入れ、沸かして塩を作る使い捨ての土器)



五色塚古墳

神戸市埋蔵文化財センター所蔵

### ■山は海で生きる人にとって目印

保久良神社、高取山、砂(いさご)山、甲山などは、海から良く見える特徴的な山で、灯台のような役目をしていた。いずれも神社と関わりが深く、海に生きる人にとって目印

(漁場のポイント、天候)となり、信仰の対象となった。外洋に出られる構造船をつくり、朝鮮半島へと向かった。海人とは、丸木船や準構造船を造った人々のことをいう。



保久良神社の「灘の一つ火」

## 質疑応答・感想など

出土された遺物は地元のもの? : 地元産だけでなく、四国や山陰などの土器も神戸で発掘されている。交流があったと推測される。

古代の神戸の人口や集落規模は? : データの積算根拠がなく不明。集落は、大規模でなくこじんまりとした小さいものが多い。

## 自分たちの足下に歴史がある(まとめ)

自分たちの足下に歴史があることを知ってもらいたいです。教科書の歴史は、中央の人たちがつくった歴史。奈良、平安、鎌倉時代など政治の中心者の歴史です。実際には、それぞれの地域にたくさんの人が生活をしていて、地元には歴史があることを理解してほしいです。神戸市内の遺跡は今でも見つからないのが多く、当時の人口やムラの数は特定できていません。今後も調査を続けていきます。

## 事務局より

今回は六甲山地の古代史を学び、市民セミナーで紹介されてきた六甲山地の歴史が繋がってきました。参加者の皆さんも感心され、もっと多くの人に伝えたいという声が多かったです。六甲山の麓から中腹は、古代の歴史文化が埋もれていて大変興味深いです。六甲山麓のグリーンベルト沿いに歴史探遊するのも面白そうですね。

### 参加の感想 霜田 泰功さん

六甲山地の麓から、数多くの銅鐸が2300年～1800年前(弥生時代)に創られ各地で出土された。銅鐸を造る技術のみならず、彫られている文様のすばらしさと文化がしのべれます。又、時代が進むに従って、銅鐸が大きくなり祭りが行われるようになったのも、面白いです。

今日あるのも、昔の人達の生活文化の発展があってこそだと歴史を見ると感じられます。出土近くに行くことがあれば、覚えて現場をのぞきたいと思います。



### ◆参考・配布資料など

- ・スライド(3種)、レジュメ
- ・神戸市埋蔵文化財センターパンフレット
- ・企画展案内チラシ

※掲載写真等は、神戸市立博物館、兵庫県教育委員会調査報告書、神戸市埋蔵文化財センター他の所蔵・発行物より転載(改訂版出典)。神戸市埋蔵文化財センターは入館無料。

神戸市埋蔵文化財センター  
〒651-2273 神戸市西区糀台6丁目1  
TEL: 078-992-0656

### ◆参加者の感想 ～アンケートより～

- ・桜ヶ丘に住んでいながら遺跡のことを知らなかった。
- ・私たちが生活している身近な場所で、遺物や遺跡が発見されていることに感動した。
- ・少し花冷えでしたが、ストーブの周りのティータイムが楽しかった。

### ◆参加者: 19名(順不同・敬称略)

谷 正俊 八木 浄 村上 定広 大谷安規永  
久保 順一 青木 孝子 中垣内 博 泉 美代子  
浅井 審一 澤田 俊哉 新木 里志 霜田 泰功  
福谷真知子 堂馬 佑太 堂馬 英二 米村 邦稔  
小野 律子 藤井宏一郎 菖蒲 美枝